

新会長あいさつ 今井東

柳谷直明前会長の後任として、会長という大役を仰せつかりました今井東です。微力ながら、職務に全力を尽くす所存です。どうぞよろしくお願ひいたします。

さて、私ども日本言語技術教育学会は、1992年の発足以来、児童生徒が生涯にわたって「話す・聞く」「書く」「読む」行為を適切かつ安定的に行えるようにするために、児童生徒が身に付けなければならない言語技術、すなわち「話す技術・聞く技術」「書く技術」「読む技術」は何かを解明しようとして参りました。そして、それらの言語技術を児童生徒に確実に定着させるための教師の言語技術も明らかにしようと、毎年全国各地で研究大会を開催し、多くの成果を得て参りました。

毎年開催する本学会の大会は、授業者が模擬授業（または公開授業）を通して各学年、領域に有効な言語技術を提案し、検討し合うという研究方法を採っています。また、研究者と実践者がそれぞれの立場から言語技術の解明に向けて平等に意見を述べ合うのも本大会の特長です。昨年7月に行われた第34回秋田大会でも、「言語技術が見える授業づくり」を大会テーマに、4つの授業提案を基にした真剣な議論が展開されました。

このホームページをご覧の皆様におかれましては、私ども学会が目指すところをご理解いただき、一人でも多くの方の学会への入会、そして研究大会への参加をいただきたいとお願い申し上げます。

第35回となる今年の大会はNHKの連続テレビ小説『ばけばけ』の舞台である島根県松江市の大多和学園開星中学校・高等学校を会場に令和8年7月4日（土）に開催いたします。当日は午前に、「話すこと・聞くこと」領域で、分かりやすく説明するための言語技術、「書くこと」領域で、作文指導における描写の言語技術、「読むこと」領域（説明文）で、対話方式による説明文の読解指導の言語技術、「読むこと」領域（文学）で、短歌の読解・鑑賞における言語技術の提案が行われます。また、午後は、午前の4つの授業で提案された言語技術の有効性を議論し、検討し合います。登壇する指定討論者だけでなく、ご参加の皆様にも積極的に検討に加わっていただき、実り多い大会となることを期待しております。